



## 自分でやるのか、グループの助けを得てやるのか⑤

Date: August 8, 2021 | BY Dr. Thomas Gordon

*(L.E.T. book からの引用)*

アルフレッド・マローは、ハーウッド・マニュファクチャリング社の取締役会の会長だった当時、組織における協力の必要性について次のように結論づけています。

以前は、一般社員と会社役員との間の教育格差が大きく広がっていました。現在ではもはやその様なことはなく、これから数年先にはその差はさらに縮まるでしょう。スーパーバイザーより社員の方が技術的なスキルが優れているということは、今では普通のことです。

今日、慎重なエグゼクティブが直面している最大のチャレンジは、人びと、特に管理職スタッフとの協力です。「すべての人がリーダーのために」ではなく、エグゼクティブは自分のスタッフを効果的なチームにまとめあげ、協力的に、しかし個々人が自分のやり方で会社のために引っ張ってくれるチームにしていかなければなりません。

「競争社会をこえて：ノーコンテストの時代」という著書の中で、アルフィ・コーンは、「とても頻繁に——私たちが思っている以上に頻繁に——協力は各メンバーのスキルを利用すると同時に、そのインタラクションが個々人の能力を高めるというミステリアスであるが否定しようのないプロセスなのです。」と述べています。

今日、リーダーは問題解決のためにグループ・メンバーの創造的なリソースを活用すべ

きかどうかという質問などほとんど聞かれませんが、多くの効果的なリーダーは非公式、公式（スタッフ・ミーティングなど）を問わず、それをただただ実践しているのです。重要な課題は、いつグループ・メンバーを参加させるのか、誰を選ぶのか、どのような種類の問題に参加が必要なのか、最終的な決断はどうやって誰が行うのか、対立をどうやって扱うかということです。私は、これらの課題について後程、詳細に説明し、同時にこれらの課題に対処するスキルや方法も提供いたします。